
黒の世界

純

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒の世界

【Nコード】

N85910

【作者名】

純

【あらすじ】

童謡をお話にしてみました。

いつ出会う？（前書き）

暗いです。

多分重いです。

苦手な方はご注意を。

いつ出会う？

鈴木夕子は絶頂の幸せの中にいた。

好きな人の子供を身ごもり、そして結婚をしたからだ。

夕子は結婚をしたが為、色々の事をやってきた。

だが、多少汚い手を使ったが誰しもやっていること、そう言う考えを持った人間だった。

その日夕子は、友人と食事をする為街にくり出していた。

そして待ち合わせ場所で友人と落ち合い、レストランで食事をして
いる。

「お腹、大きくなったね。」

「そうね、だんだん大きくなってくるのを見ているのがとても幸せ。」

夕子は大きくなっているお腹をさすりながら答えた。

「……そういえば、鈴木さん出張でさみしいでしょ？」

「そうなの。でも一人じゃないから大丈夫よ。」

友人は同じ会社で働いていた同僚だ。

そして夕子と結婚した男性も同じ会社の先輩だった。

「そうだ！あなたはどうかの？」

「ちょっと前、彼氏できたって言ってたじゃない。」

「……うん、別れちゃった。」

「そうなの……。原因は？」

「ちよつとね。嫌いになったわけじゃない。」

でも別れなくてはいけない状況に追い込まれたって感じかな。」

彼女は苦く笑いながら答えた。

そんな彼女を見ながら夕子は優越感に浸っていた。だって、自分より美人な彼女が不幸になっている。それだけで優越感を感じるものだ。

いつもいつも彼女の方が目立っていた。容姿でも仕事でも。

だから、言ってしまった。

「大丈夫よ。きっとすぐにいい人が見つかるわ。」
何も知らないのに。

「そうね…、ありがとう。」

ところでいつ予定日だったかしら。」

「あと3カ月。」

早く会いたいわ。」

その後も1時間程話し、帰ることになった。

かごめかごめ

籠のなかの鳥はいついつ出会う

だあれ？（前書き）

黒の世界の続きです。

暗いし、残酷な表現が入ってくるので苦手な方は、ご注意ください。

だあれ？

友人と話しこんでいたら遅くなってしまった。

夕子は駆け足で、そして慎重に家路を急いでいた。

住宅地は街灯があるが人通りが少ない。

少し不安に思いながら足を進めていく。

夕子は携帯で話ながら歩くと防犯にいいと言っ事を思い出した。
鞆から携帯を取り出し夫のアドレスを呼び出す。

「そういえば出張に行ってから一回も連絡がないわ。
少し言ってあげなくちゃ。」

それから携帯に電話をかけ始めた。
コール音が続く。

でも、彼がそれに出ることは無かった。

「全く、私からの電話は出てっ言ってるのに。」

夕子は諦め、携帯を鞆にしまった。

だれもない道を進んでいく。

もう少しで家につくと言っ所々に急な階段がある。

それを考え夕子は嫌な気分になった。

妊婦な自分には怖い階段。

あの階段があるから遅くならないように気をつけていたのに。

「子供が産まれたら引っ越すようにしましょう。」

あの階段は子供には危険だし。」

夕子は彼が帰ってきたら相談しようと思った。

でもなぜ彼はこんな場所に家を決めたのだろう。

駅からも少し離れているのに。

疑問に思ったが、とうとうその場所についてしまった。

夕子は一息吐いて慎重に一段目に足を下ろした。

その時、背中が押されたのが分かった。

何も考えられなかった。

分かるのは、自分が落ちていくことだけ。

せめて自分を押した人の顔を見ようと思っても暗くて分からない。

考えられたのはそこまでだった。

あとはもう黒しか分からなかった。

夕子が完全に動かなくなったのを見て

その人はその場を離れた。

この場所は人通りが少ない。

夕子はこのままになるだろう。

「自業自得」

その言葉を残してその人はその場を去った。

夜明けの晩に

鶴と亀が滑った

うしろの正面だあれ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8591o/>

黒の世界

2010年11月15日15時34分発行